

モニターの

注目

モニターのページー巡目のラストを飾るのは、笠井聖一さんです。笠井さんは、日々の生活の中から感じた「笠岡のまちづくり」について注目。

おに おうさま
御仁王様がやさしく笑っていた

時間がない！

あゝあ時間がない。なんでこんなに時間がないんだろ

う。型遅れの携帯電話も持つと、歩くよりはだいぶ速いスピードの出る高性能の車にも乗っとるし、ナビもつきたし、なのに、なんで時間がないんだろ。一週間が矢のように通り過ぎていく。いったい今日は何曜日で何日なんだろう？

そういうば、何日もお腹の底から笑っていないような気

がする。友人ともしばらく会っていない。昨日の昼ご飯は何を食べたか覚えていない。今日も予定が分刻みで入っている。明日も、その次の日も、またその次の日も…

世の中、便利にはなっただけど、全然豊かさを感じない。いろんな物がいっぱいあるけど、全然楽しさを感じない。世界中のことが瞬時にわかるけど、ご近所さんのことは全然知らない。何かすごく大事なものが、時代の流れの中で押しつぶされていっているような気がする。

小さな頃の思い出

小学校の頃、時間が過ぎるのを忘れて、友だちと暗くなるまで遊んだものだ。携帯電話も高性能の車も、何もなくても今より充実した日々を送っていたような気がする。

日曜日は、普段より静かな朝が訪れていた。お正月は、車の走る音も消え、時間がゆっくりと流れていた。あの頃のまちは表情があつたような気がする。そして、温かく包んでくれる何か母親の手みたいなものを感じていた。

今のような、無機質で鋭くかつたようなまちはなかった。お日様のさわかさを感じ、風の優しさに包まれ、雨のぬくもりを感じ、何よりも、人の温かさを感じていた。いくら便利な道ができて、いくら良い施設ができて、そこに住む人たちが、豊かさを感じられるものではないようだ。いや、逆に便利な物ができればできるほど、人が感じる豊かさは薄れていくような気がする。

御仁王様が笑っていた

話は変わるが、先日車で走っていると、ふと横から奇妙な視線を感じた。「えっ」と思っ、車を停めて周りを見渡すと、格子戸の中から大きな人がこちらを見ている。車から降りて近づいてみると、御仁王様がやさしく笑ってこちらを見ていた。その時、少しだけゆっくり時間が流れた。笠岡の近年のまちづくりは、「こわしてつくる」まち

づくりではなかったでしょうか。それにより、まちの景観に親から子へと語り継がれる物語がなくなってしまうような気がします。歴史的価値がなくても、笠岡の景観として残していかなければならない建物も多くあると思います。心象風景となるものが多くあればあるほど、まちは人を温かく包むのではないのでしょうか。ゆっくりとした時間は、そんなところに隠れているのかもしれない。



子どもの頃、よく悪いことをしたら「御仁王様」に連れていかれた。………恐かった！

このページのご意見・ご感想をお待ちしています。また、「市政についてのイラ立ち」があれば併せてどうぞ。

お便り：〒七二四一八六〇一 笠岡市中央町一ー一
まちづくり推進課モニター係 ☎ 2110 係 ☎ 2180